※令和３年度以前入学生用

学校番号	1005

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	日本史Ａ　現代からの歴史（東京書籍）						
副教材等	『図説日本史通覧』（帝国書院）、『日本史重要語句Check List』（啓隆社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・江戸時代後期から現在への歴史の流れと特色をしっかり認識し、現代社会の諸問題と歴史的背景を理解して考察することで、より良い社会を構築する一助とする。
・現代の国際社会で活動するために、現在自分が生きる自国の歴史について公正かつ幅広い知識を持つことで、他国の歴史や異文化をしっかり理解し、尊重する姿勢を養う。
・公正かつ客観的な視点で、歴史的事象を多面的に捉える柔軟な視点が求められる。

２　学習の到達目標

日本近現代史の展開を、東アジアの地理的条件や世界史と関連づけて、諸資料に基づき総合的・客観的に考察し、日本の伝統と文化の特色についての認識を深め、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、地域社会や異文化の歴史・文化を尊重し、国際社会に生きる人間として主体的に考察しようとする。	近代日本の変貌と諸課題を歴史的観点から考察し、社会の変化を客観的に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	日本近代史に関する文献･統計･写真等の資料から、各歴史的事象を公正に探求し、正確に理解して結果を適切に表現する。	日本の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		

※令和３年度以前入学生用

1学期	近代国家の成立明治時代	・明治新政府の諸改革 ・明治初期の外交 ・自由民権運動の展開 ・立憲体制の成立 ・日清戦争・日露戦争前後の国際関係と日本	○ ○ ○ 	 ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:国際環境が変容する中、新政府の制度改革や経済政策などに着目して近代国家の基盤の形成過程を考察する。 b:近代国家の成立と条約改正交渉の進展、日清・日露開戦に至る経緯について諸外国の動向と関連づけて考察する。 c:史料などから政府の諸政策の内容と意図、その社会的影響などを読み取る。 d:近代国家における政治・社会・経済の発展について、その問題点も含めて客観的に理解する。	定期考査 ワークシート
2学期	二つの世界大戦とアジア　大正・昭和時代	・帝国日本と第一次世界大戦 ・政党政治と大衆文化 ・軍国日本と日本 ・太平洋戦争と日本	○ ○ 	 ○ ○	○ ○ ○ 	○ ○ ○	a:第一次世界大戦前後の世界の政治や社会運動の動向について関心を持ちつつ、我が国における政党内閣の成立や市民文化などについて考察する。 b:世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について客観的に考察する。 c:文献資料などから当時の国際情勢と日本政府の動向を客観的に読み取る。 d:両大戦が日本の社会や経済にもたらした影響をその内容も含めて客観的かつ公正な知識を身につけていること。	定期考査 ワークシート レポート
3学期	占領下の日本と高度成長の時代　戦後史	・日本の戦後改革と復興への道 ・冷戦の開始と講和 ・55 年体制と経済復興 ・高度成長と・経済大国への道	○ ○ 	 ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○	a:　国際情勢の変化を踏まえ、連合国による日本の占領政策と民主化政策、それに伴う諸改革、占領終結後の日米関係について、様々な国の立場から考察する。戦後政治の動きを踏まえて、日本国憲法制定の意義を理解する。 b:経済復興と国際社会への復帰、その後の高度経済成長について、政治・外交と、生活の変化に着目して考察する。 c:文献資料などから、諸政策の内容や意図、社会的影響などを読み取る。 d:　戦後の政治・経済・外交などについて、国際社会の動向を背景に客観的・公正な知識を身につけ理解する。	レポート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。